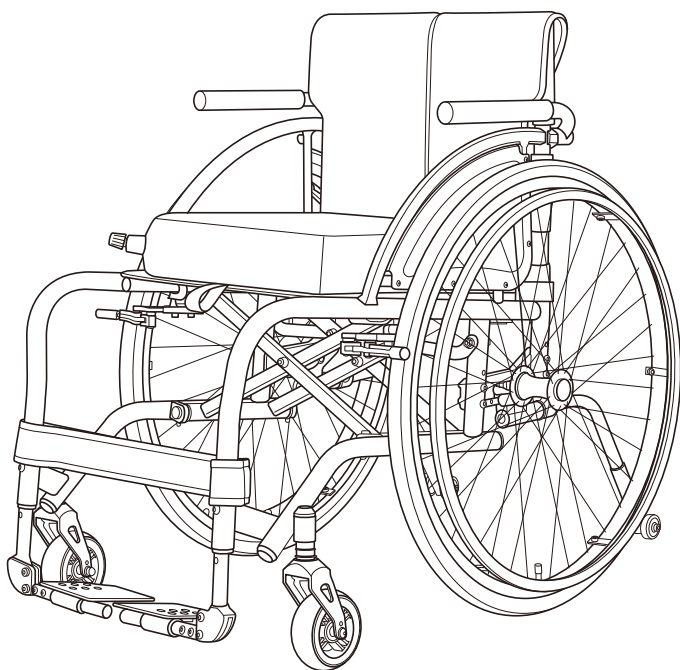


NOVA IV_ORIGIN

取扱説明書



はじめに

この度は、弊社製品をお買い求め頂き、誠にありがとうございます。ご使用前に本書を必ずお読みになり、十分に理解をした上でお使いください。また、本書はいつでもご覧になれる所に大切に保管しておいてください。使用者の身体の状況・環境の変化に合わせて、必要なときに本書をお読みください。

本書で使用している画像・イラストは、ご購入いただいた製品と異なる場合があります。製品向上のため、本書に記載している仕様の全部、または一部を予告なく変更することがあります。

目次

使用目的・特徴	2
安全上のご注意	2
各部のなまえ	5
使いかた	6
ブレーキのかけかた	6
駐車用ブレーキのかけかた	
車いすの開きかた・たたみかた	7
開きかた	
たたみかた	
乗り降りのしかた	8
乗るかた	
降りかた	
駆動輪の取り外し・取り付け	8
転倒防止装置の使いかた	9
転倒防止装置の格納	
転倒防止装置のクリアランス調節	
各部の調節のしかた	10
座面の高さ調節／駆動輪の前後位置調節	10
駐車用ブレーキの調節	10
水平ブレーキの調節	
垂直ブレーキの調節	
フットサポートの高さ調節	12
バックサポートの張り具合調節	12
使用上のご注意	13
保守・点検	13
タイヤの空気圧の確認	
駐車用ブレーキの作動確認	
各調節部分が固定されていることの確認	
消耗品・交換部品の確認	
お手入れ・保管について	14
フレームのお手入れ	
シートのお手入れ	
樹脂部品・カーボン部品のお手入れ	
タイヤのお手入れ	
保管・収納について	
走行上のご注意	15
車いすの走行について	15
車いすの持ち上げかた	15
車いすに乗ったまま持ち上げる	
本製品の処分について	15
困ったときには	15
アフターサービス・保証	裏表紙
アフターサービス	裏表紙
保証	裏表紙

使用目的・特徴

本製品は、一人乗り用の手動式車いすです。本製品に搭乗しての移動と、休息を使用目的としています。
本製品は、使用者がハンドリムを操作して駆動する手動式の自走用標準型車いすです。
日常生活用に設計されており、特殊な使用目的（スポーツ・入浴など）のものではありません。

安全上のご注意

ご使用の前に、この「安全上のご注意」をよくお読みのうえ、正しくお使いください。この取扱説明書では、お使いになる人や他の人への危害・物的損害を未然に防止するため、必ずお守りいただくことを次の表示と記号を使って説明しています。表示と記号の意味をよく理解したうえで本文をお読みください。

表示の意味



危険

この表示を無視して誤った取り扱いをすると、死亡または重傷を負う危険が切迫して生じることが想定される内容を示しています。



警告

この表示を無視して誤った取り扱いをすると、重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。



注意

この表示を無視して誤った取り扱いをすると、傷害を負う可能性および物的障害の発生が想定される内容を示しています。

記号の意味



警告・注意を促す内容があることを告げるものです。



禁止の行為であることを告げるものです。



行為を強制したり、指示する内容を告げるものです。

⚠️ 危険



スピードを出さない。

スピードが出ているときに急カーブを走行したり、急ブレーキをかけたりすると、転倒して事故やけがにつながる恐れがあります。



車いすを駐車するときは、水平で平坦な場所に駐車する。

坂道等の傾斜のある場所では、駐車用ブレーキを使用しても車いすが動く場合があり、転倒など事故につながる恐れがあります。



乗車したまま、階段を下りたりしない。



エスカレーター（車いす対応エスカレーターを除く）や、傾斜のある動く歩道（オートスロープ）では使用しない。

転落や転倒など重大な事故やけがにつながる恐れがあります。また、車いす対応エスカレーターを利用する際は、必ず施設管理者の指示に従ってください。



下り坂では、ハンドリムを使用してスピードを落として、ゆっくりと走行する。




自力では操作不可能な坂道や段差では、介助者の補助を伴う。





フットサポートの上に乗ったり、立ち上がったたりしない。


駆動輪が浮き上がり、転倒する恐れがあります。


警告


-  **認知症など、自力では操作ができない使用者が利用する場合は、介助者を伴う。**


車いすが予期しない方向に動きだして、転倒や転落など事故やけがにつながる恐れがあります。
-  **自動車の座席として使用しない。**


本製品は、車いすに座ったまま自動車等に乗車することを前提に設計されたものではありません。車いす移動車の座席として使用した場合、車載時の負荷により、車いすが破損する恐れがあります。
-  **乗り降りの際および停止時、車いすから離れるときは、必ず両輪の駐車用ブレーキをかける。**



ブレーキがかかっていないと車いすが動きだして、衝突や使用者の転倒事故につながる恐れがあります。駐車用ブレーキレバーが止まる位置まで確実に操作してください。
-  **駐車用ブレーキレバーに体重をかけない。**


レバーやフレームが破損・変形して、転倒する恐れがあります。
-  **前かがみの状態など、車いすの前方向へ体重をかけない。**


車いすの後方が浮き上がり、前方に転倒する恐れがあります。
-  **タイヤの空気圧低下に注意する。**


タイヤの空気圧が低下すると、駐車用ブレーキが効かなくなる恐れがあります。また、空気圧が低下した状態で使用すると、タイヤやチューブを傷め、破損する恐れがあります。
-  **使用者を乗せたまま車いすを持ち上げるときは、必ず駐車用ブレーキをかけて、フレームを持つ。**


フレーム以外の部品を持って持ち上げると、使用者の重みで部品が外れて、車いすの破損ならびに使用者の転倒または落下などの事故やけがにつながる恐れがあります。
-  **各部を調節する場合は、必ず両輪の駐車用ブレーキをかけてから、平坦な場所で行う。**

車いすが動きだして、事故やけがにつながる恐れがあります。
-  **必ず平坦な場所で、車いすの乗り降りを行う。**
-  **手押しハンドル、アームサポート、本体フレームおよびバックサポートのポケットに重いものを吊り下げたり、入れたりしない。**

過度の荷物はバランスを崩して、転倒する恐れがあります。
-  **駆動輪が抜けないように確実に固定されていることを確認してから使用する。**



駆動輪の差し込みが不十分な場合、車軸のロック機構が働かず、走行中に外れて事故につながる恐れがあります。(⇒「P.8 駆動輪の取り外し・取り付け」)
-  **乗り降りの際に、上げたフットサポートに足が当たらないように注意する。**

(セパレートフットサポートの場合)
けがをする恐れがあります。
-  **車いすの分解、フレーム構造を変更するような改造は行わない。**

製品の強度や耐久性が損なわれ、転倒など事故やけがにつながる恐れがあります。
-  **走行中に駐車用ブレーキを使用しない。**

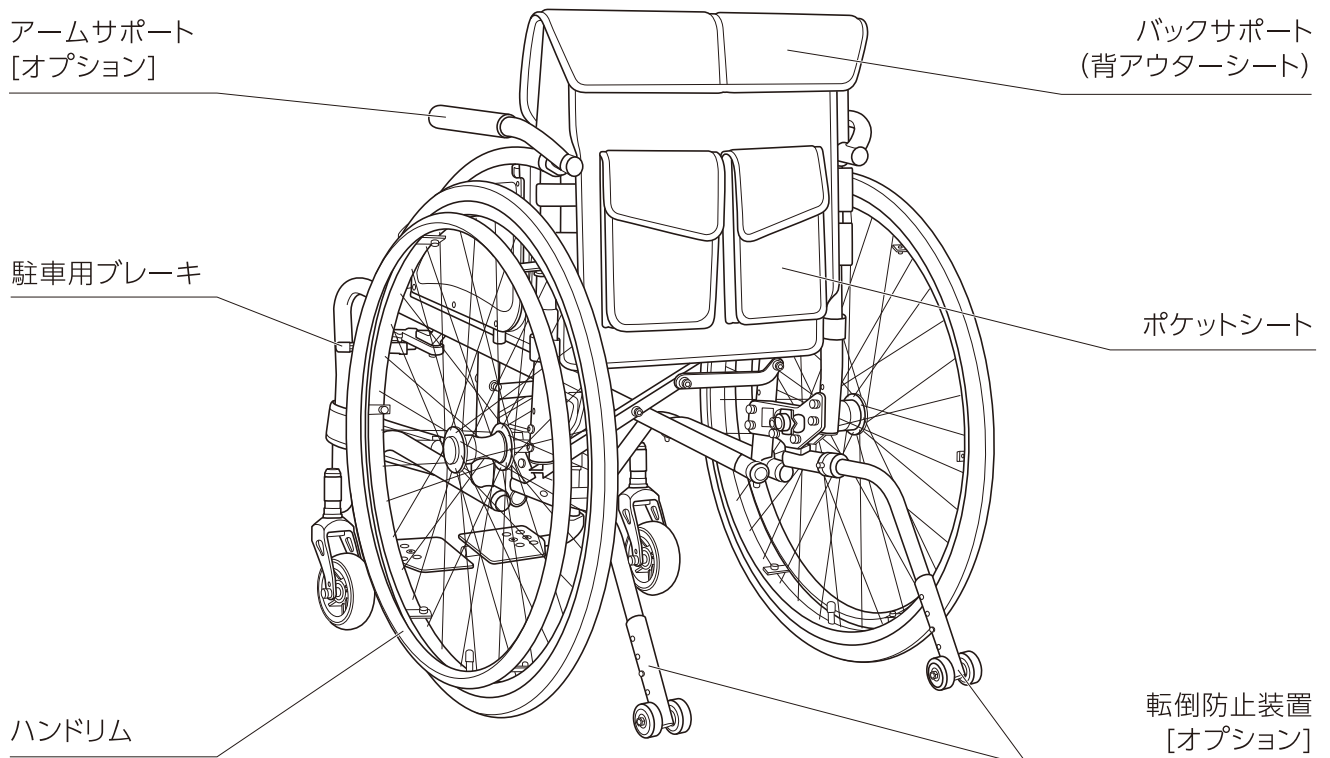
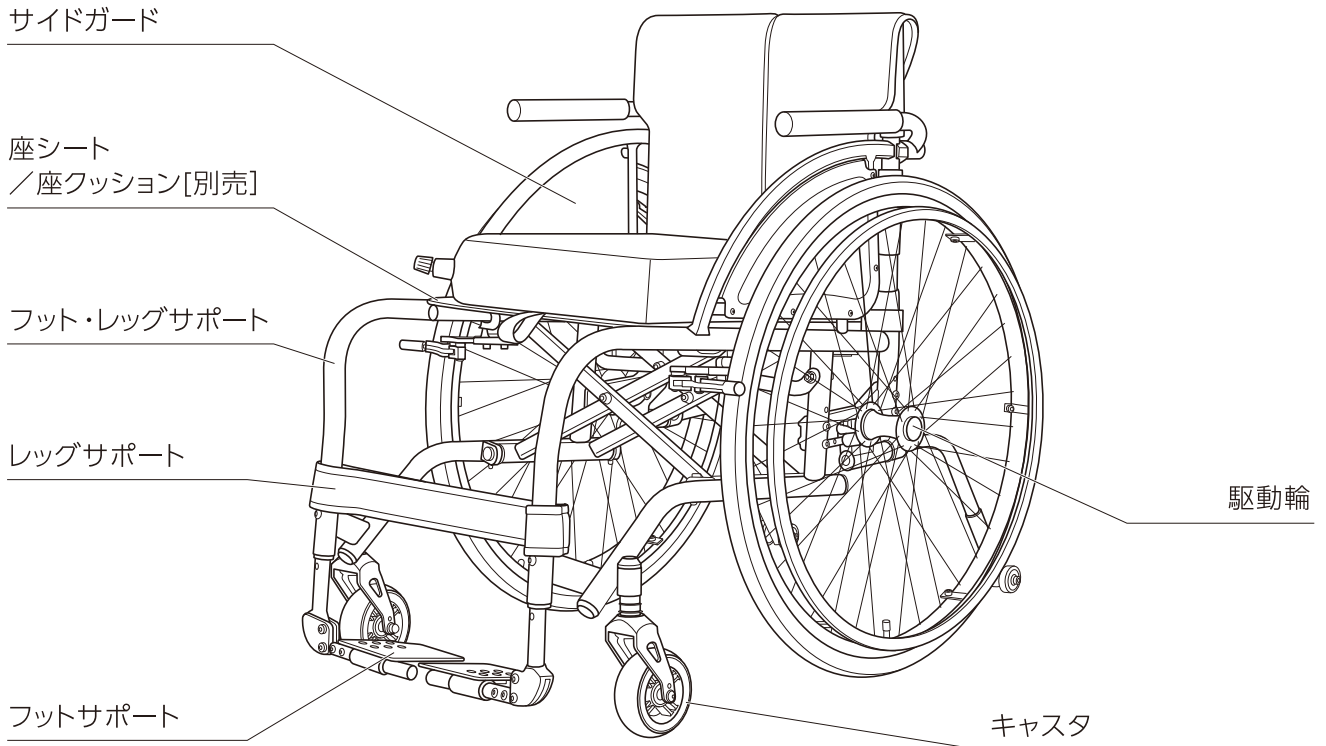
転倒など事故につながる恐れがあります。

⚠ 注意

- ⊘ 二人以上の乗車や、目的以外での使用はしない。
この車いすは一人用です。
- ⊘ 車いすを暖房器具に近づけない。
タイヤの空気が膨張して、大きな音をたててパンクする恐れがあります。また、フレームや各部品が熱で破損や変形する恐れがあります。破損した場合はただちに使用を中止して、お買い上げの販売店へお問い合わせください。

- ⚠ 操作中に異常な音や振動が発生したら、ただちに使用を中止する。
事故やけがにつながる恐れがあります。
- ⊘ シートパイプやアームサポートのパイプを握ったまま、車いすの開閉操作を行わない。
手指や爪、衣服が巻き込まれてけがをする恐れがあります。

- ⚠ 使用前に、駆動輪、キャスト、駐車用ブレーキ等のネジがゆるんでいないか点検する。
ネジ等がゆるんだ状態で使用すると、部品のガタツキや脱落などの原因となり、事故やけがにつながる恐れがあります。
- ⊘ 乗り降りの際は、アームサポートに腰掛けない。
事故やけがにつながる恐れがあります。
- ⚠ 走行中、身体を乗り出さない。
走行の安全を損ない危険です。
- ⚠ 段差を超えるときは、車いすに衝撃を与えないよう、ゆっくりと操作する。
- ⚠ 車いすを持ち運ぶ際や、自動車などへ載せる際および積み下ろす際は、必ず両輪の駐車用ブレーキをかけて、駆動輪が回転しない状態で行う。
車いすが動きだして、事故やけがにつながる恐れがあります。
- ⚠ フット・レッグサポートなど、車いすの可動部に指や身体をはさまないように注意する。
- ⊘ フット・レッグサポートのすき間に手や足を入れない。
けがをする恐れがあります。
- ⊘ フットサポートの下には足を入れない。
足を地面でこすったり、フットサポートやキャストなどに足をぶつけてけがをする恐れがあります。
- ⊘ 車輪・キャストを他のサイズや種類に変更しない。
- ⊘ バックサポートの面ファスナーの張り具合を過度に強くしない。
張り具合を過度に強くすると、十分に車いすが開かなくなりフレームの変形の原因になります。
- ⊘ シャワーや入浴には使用しない。
水分や湿気などにより故障する恐れがあります。
- ⊘ シンナー、ベンジン等の溶剤は使用しない。
製品を傷める恐れがあります。
- ⚠ 静電気やシート生地への毛羽付着に気を付ける。
フリースなど毛羽の長い衣服で車いすをご利用になる場合に、車いすのシートと衣服の相性や静電気の影響などによってシート生地に毛羽が付着することがあります。衣服用ブラシなどで付着した毛羽を取り除くか、市販の静電気防止スプレーを使用するなどしてください。

各部のなまえ

ご注文された内容によって装着している仕様・装備が異なります。



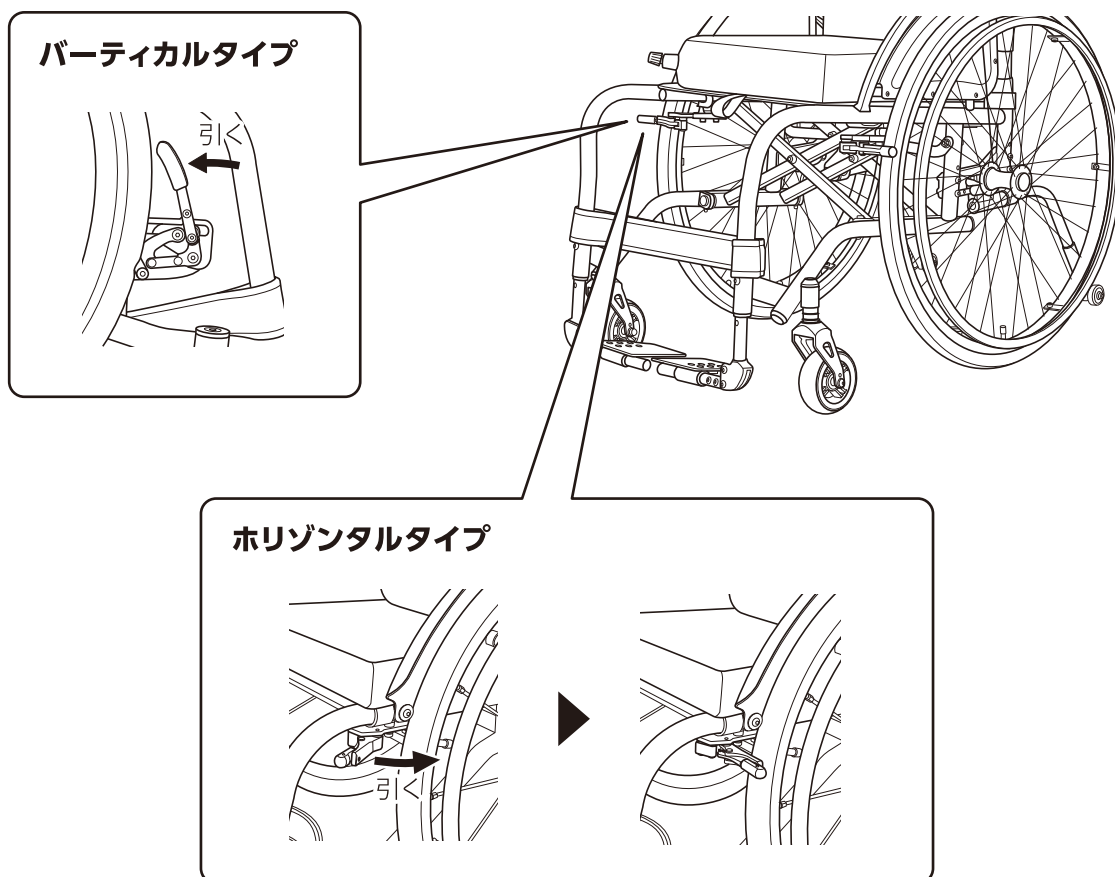
ブレーキのかけかた

⚠ 警告

- 乗り降りの際および停止時には、必ず両輪の駐車用ブレーキをかけてください。ブレーキがかかっていないと車いすが動きだして、衝突や使用者の転倒事故につながる恐れがあります。駐車用ブレーキレバーが止まる位置まで確実に操作してください。
- 駐車用ブレーキレバーに体重をかけないでください。レバーが破損・変形して、転倒する恐れがあります。
- 車いすを駐車するときは、水平で平坦な場所に駐車してください。坂道等の傾斜がある場所では、駐車用ブレーキを使用しても車いすが動く場合があり、転倒など事故につながる恐れがあります。
- タイヤの空気圧低下に注意してください。空気圧が低いと、駐車用ブレーキが効かなくなる場合があります。ブレーキの効き具合が悪いときは、先にタイヤの空気圧を調節してください。それでもブレーキの効き具合が悪い場合はブレーキの調節を行うか、販売店へ調整の依頼をしてください。(⇒「P.10 駐車用ブレーキの調節」「P.13 タイヤの空気圧の確認」)
- 走行中に駐車用ブレーキを使用しないでください。転倒などの事故につながる恐れがあります。

駐車用ブレーキのかけかた

使用者もしくは介助者が、左右の駐車用ブレーキレバーを後方に引いてかけます。
駐車用ブレーキレバーを前方に戻すと解除されます。



車いすの開きかた・たたみかた

⚠ 注意

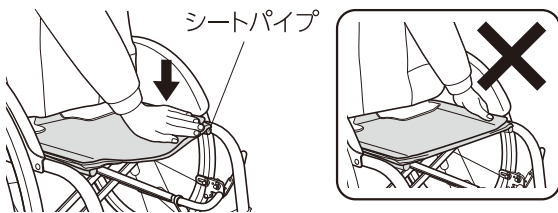
- シートパイプやアームサポートのパイプを握ったまま車いすの開閉操作を絶対に行わないでください。手指や爪、衣服が巻き込まれてけがをする恐れがあります。
- 必ず両輪の駐車用ブレーキをかけてから操作を行ってください。

開きかた

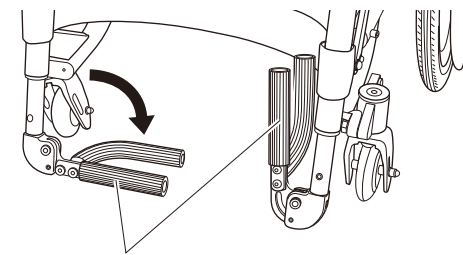
1 両輪の駐車用ブレーキをかけます。

2 シートパイプを手ひらで押し下げます。

- ※シートパイプを握らないでください。
- ※片側の車輪を少し浮かせた状態で開くと、スムーズに開きます。



3 セパレートフットサポート装着車の場合は、フットサポートを降ろします。



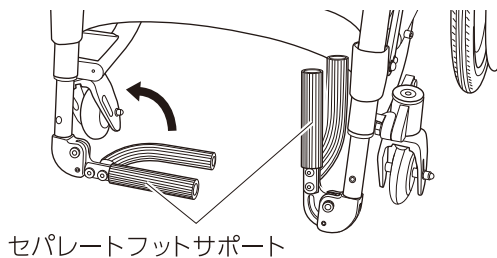
セパレートフットサポート

⚠ 警告 フットサポートのすき間に手などを挟まないようにしてください。

たたみかた

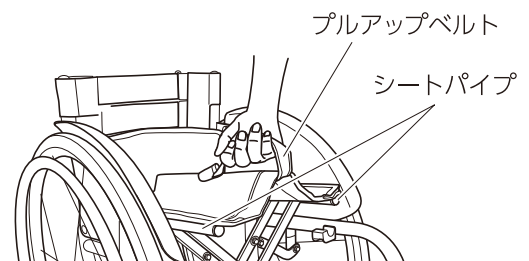
1 両輪の駐車用ブレーキをかけます。

2 セパレートフットサポート装着車の場合は、両側のフットサポートをはね上げます。

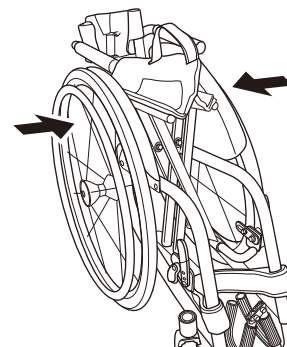


セパレートフットサポート

3 座シートのプルアップベルトを引き上げ、シートパイプを引き寄せます。



4 駆動輪を両側から押し、座シートを折りたたみます。



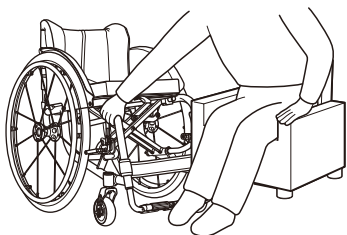
使いかた

乗り降りのしかた

⚠ 警告 乗り降りの際は、必ず両輪の駐車用ブレーキをかけてください。車いすが動きだして大変危険です。

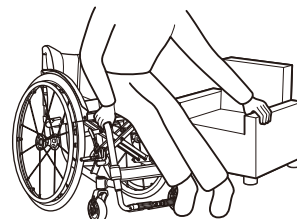
乗るかた

- 1** 車いすを真横によせます。

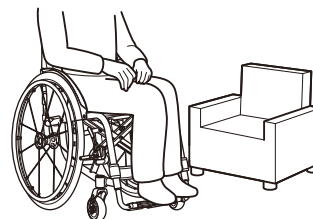


- 2** 両輪の駐車用ブレーキをかけます。

- 3** 車いすをしっかりと持ち、腰を浮かせてゆっくり乗り移ります。



- 4** 両足をフットサポートに乗せます。



降りかた

「乗るかた」と逆の手順で行ってください。

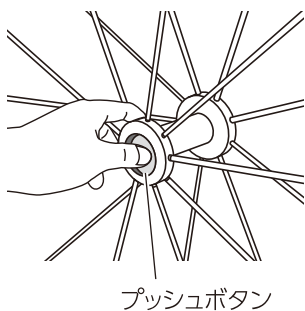
駆動輪の取り外し・取り付け

ワンタッチで駆動輪を外せるため、コンパクトに収納、持ち運びができます。

⚠ 危険 駆動輪が抜けないように確実に固定されていることを確認してから使用してください。駆動輪の差し込みが不十分な場合、車輪のロック機構が動かず、走行中に外れて事故につながる恐れがあります。

取り外しかた

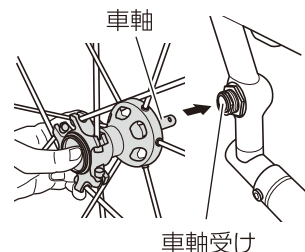
- 1** 駐車用ブレーキを解除します。
- 2** 車軸中心のプッシュボタンを押しながら、車輪ごと駆動輪を引き抜きます。



- 3** 反対側も同様に取り外します。

取り付けかた

- 1** 駐車用ブレーキを解除します。
- 2** 車軸中心のプッシュボタンを押しながら、車輪を車軸受けに差し込みます。



- 3** 反対側も同様に取り付けます。
- ※取り付け後は、駆動輪の中央を手で引っ張っても抜けないか確認してください。

転倒防止装置の使いかた

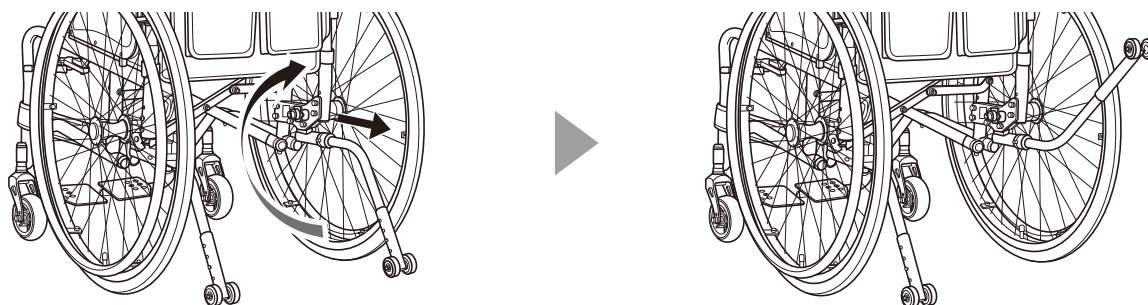
オプション

⚠ 注意 操作は、必ず両輪の駐車用ブレーキをかけてから行ってください。

転倒防止装置の格納

転倒防止装置を後ろに引きながら、内側に180°回転させて、転倒防止装置を上に向けます。

※使用する際は転倒防止装置が確実に固定されていることを確認してください。



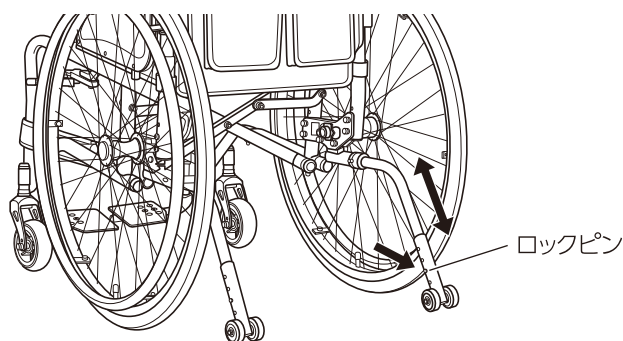
転倒防止装置のクリアランス調節

転倒防止装置と地面とのクリアランスを調節することができます。

※座面の高さを変えたときは、必ず転倒防止装置のクリアランス調節を行ってください。

※転倒防止装置は左右とも地面とのクリアランスが同じになるように調節してください。

- 1 ロックピンを指で押し込み、転倒防止装置を前後にスライドさせて適切な位置に調節して、固定する穴を決めます。
- 2 手順1で決めた穴にロックピンを固定し 確実に固定されたことを確認します。
- 3 もう片方の転倒防止装置も同じ位置に調整します。



各部の調節のしかた



警告

- 各部の調節は必ず駐車用ブレーキをかけてから、平坦な場所で行ってください。
- トルクレンチ等の工具が必要な作業につきましては、工具が無い・経験が無い方は販売店へ調節を依頼してください。

座面の高さ調節／駆動輪の前後位置調節



警告

座面の高さ調節／駆動輪の前後位置調節は、車いすの重心バランスに重大な影響を及ぼします。座面の高さ調節／駆動輪の前後位置調節が必要な場合は、必ず販売店へ調節を依頼してください。

駐車用ブレーキの調節

駐車用ブレーキの効き具合を随時確認して、必要に応じて調節してください。

また、座高・駆動輪の前後位置を変更した場合は、必ず駐車用ブレーキの効き具合を調節してください。



警告

タイヤの空気圧低下に注意してください。空気圧が低いと、駐車用ブレーキが効かなくなる場合があります。ブレーキの効き具合が悪いときは、先にタイヤの空気圧を調節してください。それでもブレーキの効き具合が悪い場合はブレーキを調節するか、販売店へ調整の依頼をしてください。

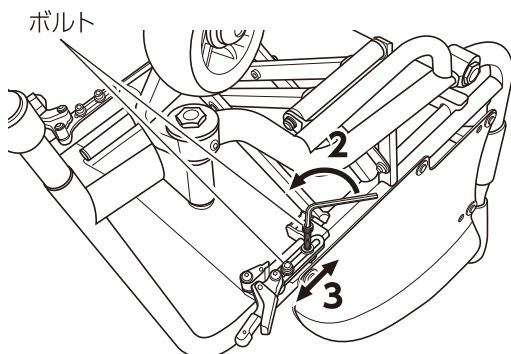
水平ブレーキの調節

使用する工具 六角レンチ(4mm)

1 駐車用ブレーキを解除して、タイヤの空気圧を確認します。
(⇒「P.13 タイヤの空気圧の確認」)

2 駐車用ブレーキをかけた状態で、駆動輪を手で回します。
手で回るようなら、ブレーキの効き具合が悪いので、以下の方法で調節します。

3 車いすを後方へ倒して、ボルト(2ヶ所)を六角レンチでゆるめます。



4 ブレーキ本体を前後にスライドさせて、適切な位置でボルトを軽く締めて、仮止めします。
※ブレーキをかけたときのタイヤの凹みの目安：
3~5mm

5 ブレーキのかかり具合が適切であることを確認したら、ボルトを締めて固定します。
締め付けトルク 6.0N・m

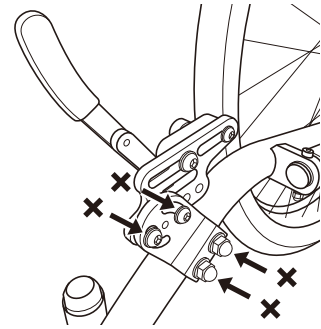
6 反対側の駐車用ブレーキも同様に確認・調節を行います。

7 調節が終わったら、車いすを元の状態に戻します。

バーティカルブレーキの調節

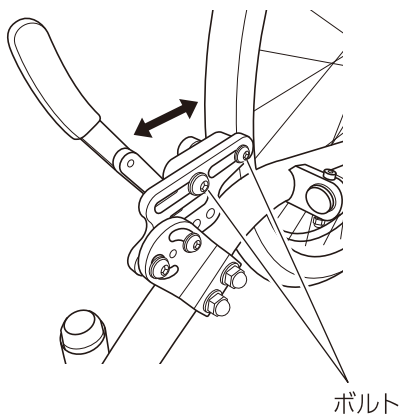
⚠ 危険

- 矢印で示した箇所のボルト・ナットは絶対にゆるめないでください。ゆるめると適切なブレーキの調節ができなくなります。
- 万一ボルトをゆるめてしまった場合、もしくはゆるんでいる場合は直ちに使用をやめて、必ず販売店へ調節を依頼してください。



使用する工具 六角レンチ(4mm)

- 1** 駐車用ブレーキを解除して、タイヤの空気圧を確認します。
(⇒「P.13 タイヤの空気圧の確認」)
- 2** 駐車用ブレーキをかけた状態で、駆動輪を手で回します。
手で回るようなら、ブレーキの効き具合が悪いので、以下の方法で調節します。
- 3** フレームの内側にあるボルト(2ヶ所)を六角レンチでゆるめます。



- 4** ブレーキ本体を前後にスライドさせて、適切な位置でボルトを軽く締めて、仮止めします。
※ブレーキをかけたときのタイヤの凹みの目安：
3~5mm
- 5** ブレーキのかかり具合が適切であることを確認したら、ボルトを締めて固定します。
締め付けトルク 6.0N・m
- 6** 反対側の駐車用ブレーキも同様に確認・調節を行います。

各部の調節のしかた

フットサポートの高さ調節

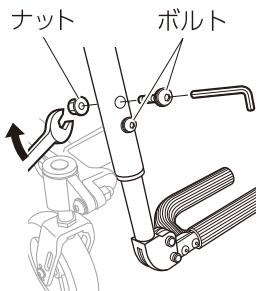
使用者に合わせて、フットサポートを適切な高さに調節してください。

※フットサポートは左右とも同じ高さに調節してください。

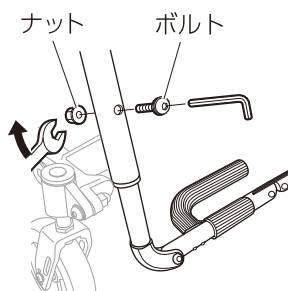
使用する工具 六角レンチ(4mm)、スパナ(10mm)

- 1 両輪の駐車用ブレーキをかけます。
- 2 上側のボルトの頭を六角レンチで固定しながら、反対側のナットをスパナなどで回して外し、ボルトを取り外します。下側のボルトは、六角レンチでゆるめて取り外します。

セパレートフットサポート

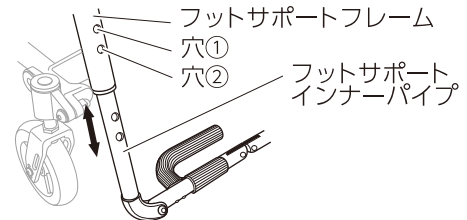


ジョイントフットサポート



※セパレートフットサポートの場合はボルト2本、ジョイントフットサポートの場合はボルト1本を外します。

- 3 フットサポートインナーパイプを適切な高さに調節して、ボルトを通す穴を決めます。



- 4 フットサポートフレームの穴①から手順3で決めた穴に、ボルトを通します。
- 5 ボルトの頭を六角レンチで固定しながら、反対側のナットを締め付けて固定します。
締め付けトルク 6.0N・m
※セパレートフットサポートの場合は、穴②にもボルトを取り付けます。
- 6 もう片方のフットサポートも同じ高さに調整します。

※調節をしたあとは、フットサポートが確実に固定されていることを確認してください。

バックサポートの張り具合調節



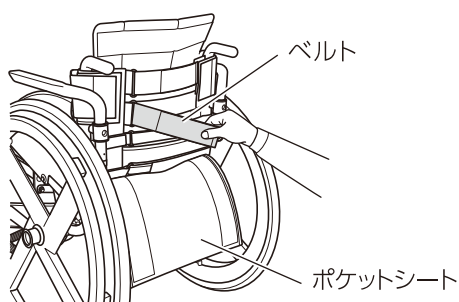
- 面ファスナーに糸くず、汚れ等がついた際は、接着が弱くなりますので取り除いてください。
- 面ファスナーの張り具合を過度に強くしますと、十分に車いすが開かなくなり、フレームの変形の原因になります。

バックサポートの張り具合を随時確認して、必要に応じて調節してください。

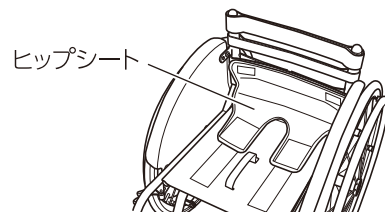
※調節は、使用者が乗車した状態で行ってください。

※リハビリセラピストまたは販売店のアドバイスを受けられることをおすすめします。

- 1 両輪の駐車用ブレーキをかけます。
- 2 ポケットシートを下にめくってはがします。
- 3 下から上の順に、ベルトの面ファスナーを貼り直して、ベルトの張り具合を調節します。



- 4 ヒップシートの張り具合も同様に調節します。



- 5 バックサポートに力を加えて、確実に固定されていることを確認します。
- 6 ポケットシートを元に戻します。

※アンカーサポート機能がついたクッションと合わせて使用すると、より姿勢保持の効果が得られやすくなります。
※過度の調節(ゆるめすぎ・締めすぎ)はかえって姿勢を崩すこととなります。十分注意して行ってください。

使用上のご注意

保守・点検

乗車前には必ず下記の事項を点検・整備して、常に安全な状態で使用してください。

※修理・調整は必ず販売店へ依頼してください。



警告

キャストの旋回軸やキャスト、駆動輪、ブレーキ、各調節部等は定期的に点検してください。ゆるんでいるときは増し締めをしてください。

- 車いすは熱気、湿気に弱いため、湿気の多い所、屋外、自動車内での長期放置や、水のかかる場所、直射日光の当たる場所には放置しないでください。

タイヤの空気圧の確認

- タイヤの空気を定期的(2週間ごと)に点検して、不足している際は空気を補充してください。(適正空気圧はタイヤ側面に明記されています。)
- 長時間使用しなくても空気は抜けていきます。空気が抜けた状態で使用すると、タイヤ、チューブを傷め、破損する恐れがあります。
- ブレーキの効き具合が悪いときは、タイヤの空気圧を調節してください。それでもブレーキの効き具合が悪いときは、お買い上げの販売店へお問い合わせください。
- パンクしたときは、お買い上げの販売店へお問い合わせください。また、パンクしたまま使用しないでください。

駐車用ブレーキの作動確認

- 駐車用ブレーキレバーを操作して、確実にブレーキがかかることを確認してください。

各調節部分が固定されていることの確認

- 各調節部分を確認して、確実に固定されていることを確認してください。

消耗品、交換部品の確認



警告

交換部品を過ぎての使用は、転落、転倒、衝突などの事故につながる恐れがあります。

- それぞれの部品が交換時期を迎えたときは、お早めに部品を交換してください。
- 新しい部品に交換する際は、お買い上げの販売店へ連絡してください。

消耗品・交換部品

品名	交換時期
主輪 (ホイール)	<ul style="list-style-type: none">• タイヤの表面に溝がなくなったとき。• タイヤにひび割れなどが見られる場合。
キャスト	<ul style="list-style-type: none">• 表面の摩耗が著しいとき。• しっかり締め付けても車輪ががたつくとき。

品名	交換時期
シート	<ul style="list-style-type: none">• ほつれ、切れ目が発生したとき。• ひどく汚れたとき。• 面ファスナーの接着が弱くなったとき。

使用上のご注意

お手入れ・保管について



注意

- シンナー、ベンジン等の溶剤は使用しないでください。製品を傷める恐れがあります。
- 車いすや各部品を乾かすときは、直射日光をさけて陰干ししてください。

フレームのお手入れ

- フレームの汚れは、中性洗剤を含ませたタオルかスポンジで拭き取ってください。拭き取った後は、乾いた布で水分を拭き取り、十分に乾かしてください。
- 水などがかかった場合は、乾いた布で水分を拭き取り、十分に乾かしてください。

シートのお手入れ

- シートの汚れは、中性洗剤を染み込ませた布で汚れを拭き取った後、水で濡らした布で洗剤を拭き取り、その後乾いた布で水分を拭き取り、十分に乾かしてください。
- 面ファスナーに糸くず、汚れ等が付いた際は、接着が弱くなりますので取り除いてください。
- フリースなど毛羽の長い衣服で車いすをご利用になる場合に、車いすのシートと衣服の相性や静電気の影響などによって、シート生地に毛羽が付着することがあります。毛羽が付着した際は、衣服用ブラシなどで付着した毛羽を取り除いてください。

樹脂部品・カーボン部品のお手入れ

- 樹脂部品・カーボン部品の汚れは中性洗剤で落としてください。

※カーボン部品はサイドガード（オプション）などに使われています。

タイヤのお手入れ

- タイヤやリムが汚れた場合は、中性洗剤を使用して擦り洗いをしてください。水に濡れた後は、乾いた布で水分を拭き取り、十分に乾かしてください。



警告

タイヤなどのゴム部品や樹脂部品は、濡れたまま放置したり、ひび割れが見られる状態で使用を続けると、樹脂内部に水分が侵食して加水分解を起こして、部品の劣化が早まります。症状が見られましたらお早めに部品を交換してください。

保管・収納について

- 収納スペースが少ないときは、座シート、バックサポートを折りたたんで保管してください。
- 錆やタイヤのパンク、劣化を避けるため、湿気の高い場所や室温が上がる場所、直射日光の当たる場所には保管しないでください。

走行上のご注意

車いすの走行について

⚠ 危険

- 傾斜地ではスピードが出やすいため、走行には十分注意してください。
- 溝や踏切の線路による落輪、キャストのはさみ込みには十分注意してください。

⚠ 警告

- 車いすは道路交通法上、歩行者として扱われています。車道を通らず、必ず歩道を通ってください。
- 歩道の段差や凹凸のある路面を走行するときは、前のめりにならないよう十分注意してください。
- 踏切を通過するときは、まわりの安全を確認したうえで、停車せずにまっすぐ通過してください。
- 下り坂ではハンドリムを使ってスピードを落として、必ず前向きで走行してください。操作に不安がある場合は、介助者を伴ってください。
- エスカレーター（車いす対応エスカレーターは除く）や、傾斜のある動く歩道（オートスロープ）での使用は、絶対に行わないでください。
- 公共交通機関をご利用の際は、係員の指示に従ってください。

車いすの持ち上げかた

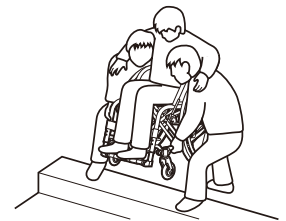
⚠ 警告

車いすを持ち上げる場合は、必ずフレームを持ってください。フレーム以外の部品（駆動輪、スポーク、アームサポート、手押しハンドルなど）を持って持ち上げると、使用者の重みで部品が外れて、車いすの破損ならびに使用者の転倒または落下などの事故やけがにつながる恐れがあります。

車いすに乗ったまま持ち上げる

車いすに乗ったまま持ち上げる場合は、二人以上で行い、使用者の上半身を支えながら、フレームの下部を両側から持ち上げるようにしてください。

※使用者の両腕をそれぞれの介助者の肩にかけると、持ち上げる際の介助者の負担が軽くなります。



本製品の処分について

本製品の処分につきましては、最寄りの自治体担当窓口までお問い合わせのうえ、自治体の指示に従って廃棄してください。

困ったときには

本製品をご使用されていて「故障かな」と思われましたら、販売店へ連絡する前に、以下の項目を確認してください。

症状	確認点	対処のしかた
車いすがまっすぐ走らない。 斜行する。	路面が傾斜していませんか。 車いすは、傾斜面では低い方へキャストが流れる特性があります。	低い方へ曲がらないように車いすを操作してください。 〈自走の場合〉 傾斜面の低い側に当たる駆動輪をより強く回してください。 〈介助者が押す場合〉 傾斜面の低い側に当たる手押しハンドルに、より力を入れて押してください。
	キャストの回転に左右差がありませんか。 キャスト軸の回転はスムーズですか。	お買い上げの販売店へ修理を依頼してください。
	キャスト・駆動輪（主輪）の計4輪が確実に接地していますか。	

困ったときには

症 状	確認点	対処のしかた
駐車用ブレーキが効かない。	駆動輪(主輪)の空気圧の不足、または左右の空気圧に差がありませんか。	左右の駆動輪(主輪)を適正な空気圧に調節してください。 (⇒「P.13 タイヤの空気圧の確認」)
	駆動輪(主輪)のタイヤは摩耗していませんか。	お買い上げの販売店へ修理を依頼してください。
	駐車用ブレーキのタイヤ押えが駆動輪(主輪)にきちんと当たっていますか。 駐車用ブレーキがガタついていませんか。	
駆動輪(主輪)に空気が入らない。 空気を入れてもすぐに抜ける。	適正な空気圧で補充していますか。	左右の駆動輪(主輪)を適正な空気圧に調節してください。 (⇒「P.13 タイヤの空気圧の確認」)
	チューブがパンクしていませんか。 チューブバルブが消耗していませんか。	お買い上げの販売店へ修理を依頼してください。
異音がする。	本体や駆動輪(主輪)とオプション品、アクセサリーなどとの干渉はしていませんか。	車いすに取り付けて使用するカバンなどは、駆動輪(主輪)など回転する箇所と干渉しないようにして使用してください。
	可動部分の錆び・摩耗・汚れ・油切れなどによって起こる摩耗音がしていませんか。	お買い上げの販売店へ修理を依頼してください。
	ボルト類の緩み等がおきていませんか。	
	フレームに歪みが発生していませんか。	
車いすが開かない。	バックサポートの張り具合を締めすぎていませんか。	バックサポートの張り具合を調整してください。 (⇒「P.12 バックサポートの張り具合調節」)

アフターサービス・保証

アフターサービス

- 万一故障の場合は、お買い上げの販売店、または弊社へこの商品の品名と故障状況を連絡してください。
- 保証期間内の修理につきましては、保証書の提示が必要です。

保 証

- 保証内容につきましては、同梱の保証書をお読みください。
- 保証期間終了後の修理につきましては、お買い上げの販売店、または弊社へお申しつけください。
修理によって機能が維持できる場合は、お客様のご要望により有償修理いたします。

製造元


 株式会社 ミ キ

〒457-0863 名古屋市南区豊三丁目38番10号